



第 44 号

みどりの風

目 次

愛知東邦大学 稲垣ゆかり 表紙 (写真)

2017年度定期総会記念講演会講演録

「福島は現代日本のフロンティア

～困難の中からチャンスを見つける方法～」

講師：株式会社小高ワークスベース代表取締役

和田 智行 氏 2 頁～ 6 頁

会員の皆さんからの投稿

「赤萩時代最後の卒業生として」

加藤 誠一 7 頁～ 8 頁

「父が愛した東邦学園」

鳥原 久資 9 頁～ 10 頁

「東邦のルーツを探索する その一」

竹田 善隆 11 頁～ 14 頁

企画報告

自然と親しむ会：西濃で紅葉を楽しむ旅..... 15 頁

2018年度愛知東邦大学コミュニティーカレッジ

前期開講講座のご案内..... 15 頁

「中小企業のための若手社員活性化プログラム」… 16 頁



題字：森井勝也

写真 (上) (下) 白川郷



福島は現代日本のフロンティア ～困難の中からチャンスを見つける方法～

講師：和田智行氏(株式会社小高ワーカーベース 代表取締役)

私は、株式会社小高ワーカーベースの和田と申します。福島県の南相馬市というところで、福島第1原発の避難区域にあたるところで事業を営んでいます。

簡単に自己紹介させてください。私は南相馬市小高区生まれの40歳で、家族が4人おります。もともとシステムエンジニアをやっておりました。大学入学を機に上京し、卒業後、そのまま東京でITベンチャー企業に就職しました。5年後、独立して仲間と共にITベンチャーを2つ立ち上げました。東京で立ち上げ、当時の小高町（現在の南相馬市）という所にUターンしたのが2005年です。東京の会社の仕事を福島の南相馬の小高で遠隔でやりながら、月に1～2回東京に出て打ち合わせしたり、コミュニケーションとったりしながら生活していました。そんなふうに5～6年仕事していたんですが、2011年3月に東日本大震災が発生し、原発事故が起きました。家は原発から15kmくらいの所にあります。3月12日には、私たちの住んでいた地域にも避難指示が出まして、それ以来避難生活を強いられることになりました。避難先は5ヶ所転々とし、一時は埼玉県の方に1年間くらい居たこともありました。2012年の4月には会津若松市に行き、避難生活をおくっていました。その間に、いろいろと自分の中で価値観の転換が起きました。それまではITベンチャーで、いかに早く大きく稼ぐか、隣の人よりも儲けるか。そんなことを最大の価値として働いていましたが、例えばお金を持っていたとしても食料が手に入らない。子どもたちに放射能が降りかかってくる、そんな恐怖があるのに守ってやることができない。車で逃げなきゃいけないのにガソリンも手に入らない。そんな経験をするうちに、価値観が変わってきました。働き方を変えようと思い、やっていた会社を辞め、会津若松にインキュベーションセンターといって、起業したばかりの人に安く部屋を貸して事業が軌道にのるまでサポートする。そのような仕事をしておりました。その間に今の小高ワーカーベースの構想を練り、2014年5月に設立して現在に至っています。

詳しい話をする前に、福島について少しお話ししたいと思います。福島第1原発から東急ホテルまでを直線距離で測ると442キロあります。福島県は北海道、岩手県に次いで3番目に広いんです。会津・中通り・浜通りと3つの地域に分かれているんですが、

それぞれ言葉も違うし、気候も文化も違います。同じ県でありながらまったく違う人種のような人たちが一括りになって暮らしています。

会津は新潟に隣接しており、非常に雪深いです。中通りは盆地です。両側を山に囲まれています。ここは、新幹線や東北自動車道といったインフラが整っていて、首都圏から新幹線で福島まで1時間半で着くといった地域です。それから、我々が住む浜通りは、海があって温暖です。会津が豪雪で1m積雪しても浜通りは晴天というように大きく気候が違います。我々の地域はサーフィンが盛んで、世界大会が開催されたこともありました。最近のニュースですが、福島県はお酒の美味しいところで、今年も金賞を受賞したお酒が22銘柄あって、これは全国一位なんです。5年連続受賞しているところもたくさんある地域なんです。

我々の相馬といわれる地域はどんなところかご紹介したいと思います。「相馬の馬追い」という神事が千年続いていると云われています。どんな神事かというと、騎馬武者が神社の旗を打ちあげ、それを取り合います。毎年7月に行われ、現在も700騎の騎馬武者がいて、毎朝乗馬の練習をしています。そうやって千年に亘って文化と伝統を守り継いでいる地域です。京都とかでもないのになんで千年も続くのかといいますと、相馬は鎌倉時代から明治維新までずっと相馬家が治め続けていました。国替えとか滅ぼされたりとかしなかったんです。そういう藩は日本に3つしかなく、相馬藩、鹿児島島の島津家（薩摩藩）と熊本の人吉藩です。他の地域では殿様が変わるので、そのたびに推奨する産業とか文化とか変わってしまっ、歴史が続いていかないですが、我々の相馬藩は同じ城主が治め続けていたので同じ神事が残っているんです。今現在も殿様がいます。34代の相馬行胤（みちたね）さんという方で、現在43歳の殿様です。こういう人が現在もいて、国民にとっての天皇みたいな感じですかね。

東日本大震災が起きました。南相馬市は人口71,000人くらいいたんですが、福島県の中で一番多く、1,135人が亡くなりました。特徴的なのが、実際に起きた津波と地震で亡くなった方が525人、行方不明者111人で、震災関連死という方が500人近くいらっしゃいます。避難してしまったが為に、それまで入院していた方や介護施設に入っていた方が避難先で適切な処置が受けられなくて亡くなってしまっ

た。あるいは、元気で暮らしていたお年寄りが、仮設住宅に入ったことによる生活の変化についていけなかったり、畑仕事などで健康を保っていた人ができなくなったことによっていっきに衰弱してしまったり、そういったことがこの震災関連死に入ってきます。だから、原発事故が起きて避難しなきゃいけないわけですけども、被爆で死ぬのと避難して死ぬのとどっちが危険だったかというのは、このデータを見るとよくよく検証しなくてはいけないと思いました。

未だに13,000人の方が避難しており、56,000人が市内に住んでいるという状況です。福島第1原発からの位置ですが、我々の南相馬市小高区は南相馬市の一番南側に位置しています。福島第1原発から20キロ同心円の中に入ってしまったが為に避難しなければならなくなったわけですが、南相馬市全体が避難するのではなく我々の小高区だけが避難することになりました。小高には12,800人が住んでいましたが全住人強制避難ということになりました。

(写真を見ながら) これは、震災時の写真です。当然のことですが、地震の影響が強くて建物がかなり倒壊しました。父の織物工場も、妹の家も全壊しました。最初の1年は警戒区域となって、全く立ち入ることができなくなりました。そうすると、雑草が生い茂ってきて、あっという間に家がジャングルのようになってしまいました。3ヶ月に1回の立ち入りが許された時は、防護服に身を包んで靴は上からビニールのカバーをした上で入り、必要なものを持って帰るというものでした。ただ、持って帰れる物が非常に限られていまして、45リットルのゴミ袋に入るだけにしてくれと言われました。ゴミ袋を手渡されて怒る人もいます。位牌を持って帰ろうとしていた人が「ゴミ袋に入れられるか!」と怒ったこともあります。当然、持ち帰ったものを汚染されていないかを検査する必要があったのですが、机の上に並べて検査されます。それを知らずに女性は下着とかを持って帰ったものですから、人前で広げられて人間としての尊厳を傷つけられました。

また、可哀想だったのはペットです。避難指示が出た時、ほとんどの人が1日2日で戻れるだろうと思っていました。避難所に行く時に犬や猫を連れて行ったら迷惑になるから、可哀想だけど置いて行こうと判断したお宅がたくさんあるわけです。ところが着の身着のままでそのまま戻れなくなってしまった。繋がれたまま置き去りにされた犬猫がたくさんいました。

一時帰宅ができるようになって最初に目に写った風景は、道路はでこばこで車なんか走らせられないし、建物は倒壊し道をふさいでいる状況、そこに雑草が生い茂って街を飲み込んでいってしまう。犬猫の死体がごろごろと白骨化している。腐敗臭が町中に漂っている。生活している人がいないので、びっく

りするくらい静かで耳鳴りがするくらいなんです。正にゴースタウンです。

気になるのが放射線量だと思いますが、今、南相馬市小高の放射線は毎時0.12~0.17マイクロシーベルトなんです。これがどんな数字なのかと言いますと、東京からニューヨークに飛行機で行くと0.2ミリシーベルト被爆するんです。この場合は宇宙線とかで被爆するわけですけども、小高に1,000時間滞在するのと1回ニューヨークに行くのと同じくらいの放射線量となっています。結論としては、私は、健康に生活するのに問題ないかなと思っております。震災前の基準としては年間1ミリシーベルトだったんです。毎時にすると0.23マイクロシーベルトくらいです。だから、震災前の半分くらいの放射線量と考えれば、震災前はどこでも暮らせないことになるので安心して暮らしていいのかなと判断しております。

南相馬市の避難住民のアンケート(2014年時点)をいくつかご紹介したいと思います。「南相馬市に住みますか?」の質問には、半分以上の人が南相馬市に住みたいと答えています。年代別でみると、年配の方に多く、若い方は「もう帰らない」「住まない」と答えている人の割合が多くなっていました。では、南相馬市の中でも避難区域とそうではないエリアがありますので、「南相馬市のどこに住みたいですか?」と聞いたところ、半分くらいは「小高に帰りたい」と答えていました。避難者の半分は南相馬市には住みたい、さらにその半分は小高に帰りたいと言っています。逆にいうと避難者の半分は南相馬には帰らない、帰る人の半分は小高以外の市内に住みたいということですね。帰らないという人に「その理由はなんですか?」と聞くと、放射能汚染の不安とか医療福祉サービスの不安とか、そもそも地震で壊れたり津波で流されたりしてもう家がないからという理由でした。逆に「その不安が解消されれば戻りますか?」と聞いてみると、「何が解消されようが自分はもう戻りません」と答えている人が64.2%もいました。

そんな中で昨年7月に大部分の避難指示が解除されました。まだ、帰還困難区域という一番放射線量が高い区域が残っていますが、南相馬市の場合、そこには1世帯2人だけなので実質全面解除とみていいのかと思っています。

それでどうなったかといいますと、人口は3,000人くらい減りました。四分の一くらいは移転してしまい、4月末の時点で1,729人。今年の4月に小学校、中学校と県立高校も2校が統合されて小高産業技術工業高校という形で再開しましたが、どれくらいの生徒が戻ってきたかという、小学校は14%、中学校は26%、高校は6割くらいという状況です。私の家族もこの4月に学校が再開したので戻ってきましたが、小学校4校合わせて1学年7、8人程度です。これが今の南相馬市の小高区の状況です。

ここまでお話しすると、暗い気持ちになって、この地域はもう駄目なんじゃないかと思われるかもしれませんが。誰もが絶望したり、同情してくださったりするんですが、我々はそんなこの地域が逆に非常に大きなチャンスと希望と、正に閉塞感漂う日本社会を突破する鍵があると感じて、ここで一生懸命事業をやっているところです。

我々の事業についてご紹介したいと思います。我々がミッションとして掲げているのは、地域の100の課題から100のビジネスを創出することです。避難区域になってしまった、放射能に汚染されてしまった地域に戻って住めるのか、町が蘇るのかということは、今まで人類史上誰も成し遂げていないこと。当然課題はたくさんありますし、複雑に絡み合っています。だから、住むべきではないとか諦めるべきとかではなくて、課題が100あるならばそれを解決するビジネスを100作っていけばいいんじゃないか。単純に考えました。なぜそんなことを思ったのかというと、人類が今まで誕生してからこの2017年まで、こうやって発展して繁栄してきたのは、目の前の課題や驚異に知恵を絞って力を合わせて乗り越えていったからですよ。現代社会であれば、困っている人がいればその困りごとを解決するサービスを提供したり、何か欲しいものがあればそれを満たすようなものを生み出したり、そういったことを積み重ねていって今のこの現代社会が豊かになってきたと思います。であれば、我々の地域だって何もなくなってしまったけれど、そのプロセスをもう1回踏んでいけばいいだけのことじゃないかと、本当に単純にそれだけの気持ちでこのミッションを設定しています。とはいえ、大きな産業を作ろうとか大企業を誘致してどうかではなく、帰ってくる住民の暮らしを支えるビジネスをどんどん作っていくと考えてやっております。

では、小高には今まで事業者はいなかったのかというと500くらいの事業者がいました。500くらいのお店や工場などがあったんですけど、ほとんど再開していません。建築関係・土木関係は仕事がたくさんあるので、当然再開しているんですが、商店などはなかなか再開できないですね。なぜなら、人が住んでないのにそんなところで再開したって商売が成り立つわけ無いじゃないかということです。工場でいうと、働いてくれた今までのスタッフや若者もみんな避難してしまったので、人手が足りなくて工場が動かせないということなんです。住民からすると、お店も働くところもない、そんな状況の街に帰れますか？ということなんです。店が先なのか住民が先なのか、どっちを先に動かせばいいのか。これはもう卵が先か鶏が先かの議論で永遠に終わらない議論です。であれば、まず事業を起すべきではないかと思ってスタートしました。事業を起すことで人の出入りが生まれます。そこで働く人、取引先、

お客さん、そういった人が今まで立ち入る必要の無かった場所に入ってきます。その人たちは一定時間その場所で過ごすことによって、頭ではわかっていた課題が自分の身に降りかかってきます。例えば、喉が渴いたのにお店もない自販機も全部止まっている、どうしよう。水を飲んでいいのかどうかかわからない、どうしよう。お腹がすいたけれどもお店もない食堂もない、どうしよう。そうすると誰かが声を上げます。「前にあの店やってたし、がんばって再開してよ」という人や、「誰もやらないなら俺がやるわ」と言って事業を始める人。サイクルが一つ動いてどんどん回ることによって、人が住まなくても地域の経済に血が通い始めるだろう。そんな風な仮説をたてました。それによって住民が、「最近お店も再開してきたし、人も出入りするようになってきた」「仲のいい近所の誰々さんも家に帰って片付けしてるみたいだよ」という話が聞えてくれば、「自分もいつか帰って暮らせるかもしれない」というように気持ちの変化が起きてくるんじゃないかと、そんな風に考えてスタートしました。

そのために始めた具体的な事業を4つご紹介します。一つは会員制のオフィススペースです。なぜ始めたのか。当時、何か事を起そうにもパソコンに電源につなぐことはおろか、座る場所もなかったんです。屋根の下で作業するということができない状態でしたので、我々の事務所を会員の方に開放して、誰でも我々の事務所スペースを使ってもらえる。電源もインターネットも使えるし、プリンターとかシュレッダとかFAXとかもある。そういうものを使って、みんなでここで起業していくというか、拠点にしようと思いました。



次に始めたのが食堂です。「おだかのひるごはん」という、なんてことない普通の定食屋です。地元のお母さんの作る、野菜炒めとかから揚げとかのメニューです。郷土料理とか名産品を使うということもなく普通の定食を提供する、そんなお店です。当時、人は住んでいなかったんですが、我々のように働いている人間が少なからず出入りしていました。2014年当時、私自身お腹がすいても食べる場所が無かったので非常に困っていました。我々以上にずっと困っている人たちがいました。誰かということ、除染作業をする人たち、復旧工事をする人たち、こういった人たちが2年前から小高に入って作業してい

たんですが、5～6千人ほどいたんです。その人たちがご飯を食べる場所がなくて困っていたんです。避難区域外のコンビニで行列を作って弁当を買ったり、毎日同じ弁当を業者さんに配達してもらったりしていたんですね。つまり2年間、温かな出来立てのお昼ご飯を食べたこと無かったし、汁物のようなものは食べられない状況だったんです。それを知った我々は、温かいご飯を提供できるお店をやろうとスタートしたんですが、始めてみると意外な効果がありました。働きに来てくれる人達の為に始めたんですが、お客さんの6割が住民になってきたんです。なぜかという大きな理由があります。我々が賠償金をもらっている身分であるということに関係しています。最近、原発いじめの問題がだいぶん表に出てきましたけれど、子どもだけでなく大人も非常に妬まれます。避難先というのは賠償金をもらっていない地域です。もらっている我々が行くことによって道路や病院が混む。自分たちは迷惑な思いをしているのに、こいつらは賠償金をもらって悠々自適に暮らしていると見られちゃうんですね。スーパーに行くと中トロぐらいが入ってる寿司をかごに入れた瞬間、「お前らは金もらってるからいい物が食えていいな」という声が飛んできたり、避難先で新しく生活をしようと思って家を建てると壁に「小高に帰れ」みたいな落書きをされたり、タイヤに釘を打たれてパンクさせられたりするわけなんです。そうすると、避難先で小高の住民でしと言えなくなるんです。胸を張って言えないので、隠れてというか、片身の狭い思いをして生活しなきゃいけなくなってくる。非常に鬱々とした避難生活を送っていたんですが、この食堂を開いたら住民の方が集まってきたんです。悩みとか不安はみんな同じものを抱えていますから共有できるわけですね。ここに来ると小高の住民に会えて、先の話であるとか今の愚痴であるとかを言い合える。ここは地域のコミュニティを再生していく場として機能してきました。

二つ目の効果ですが、避難区域に食堂作ったものですから珍しがってメディアが殺到しました。それによって小高の状況が世の中に発信されていくようになりました。それまでは、避難している人たちに伝わる小高の状況・情報っていうのは、除染が何%終わりましたというくらいで、いったい今何が起きているのかということがわからなかった。メディアが入ることによって、小高のいきた姿が発信されるようになりました。

それから三つ目なんですけれども、これが一番大きいかなと思うのが、事業者に与えた気持ちの変化ですね。この食堂を始める時、私は散々バカにされましたね。誰がこんな汚染された場所、人が住んでない場所に飯を食いに来るんだ、しかも素人じゃないか、成り立つ訳ないだろうと。いやいや待ってよ5～6千人がご飯食べれていないのに、何でうまくいかないって思えんの？というふうに逆に思ったん

ですね。そして、やってみたらお陰さまで連日たくさんのお客さんが来てくれたわけです。そうすると、事業主さんの気持ちが変わってきます。俺も戻ってやろうと、そういう人が出てきました。特に一番驚いたのは、借りていたお店のオーナーさんの気持ちの変化でした。地元のラーメン屋さんをお借りしていたんですが、そのオーナーさんは、他のところで再開していて戻る予定はなく、「使っていいよ」と無償で貸してくださったんです。ところが、ある日電話がかかってきました。非常に申し訳なさそうに、「ごめん。申し訳ない」「私、戻ってもう一回ラーメン屋やるからお店を返して欲しい」と言われたんです。私たちはその瞬間、良かったかと、格好つけているわけではなく心から思ったんですね。儲かっている事業を簡単に手放すのは、経営者としてはどうなんだということもありますが、散々バカにされながらやってきた事業が、今まで諦めていた人の心を動かして自分もやろうという気持ちになってくれた。ましてや、おいしいと評判の老舗で、昔から同じ味をつないでいるラーメン屋さん。そういう店が戻ってくると地域でのインパクトは大きいと思ったので、働いていたお母さんたちと相談し、喜んで受け渡そうと、食堂は昨年3月に閉店しました。ありがたいことに惜しまれて、他のところでやってくれという声もたくさんいただいたんですが、100の事業を作ろうと目指していますので、役目を終えたものは他の人にバトンタッチすればいいという判断で食堂は閉めました。

次に始めたのは仮設スーパーです。「東町エンガワ商店」という仮設スーパーを始めました。地域にスーパーもコンビニも1軒も再開予定がなかったので、そんな状況じゃ帰れませんという声が非常に多かったんです。市も国も県も、何とか事業主さんがんばって欲しいと、いろんな補助金やサポートを用意したんですが、それでも再開されなかった。仕方ないということで市が予算を取って什器を揃え、水道光熱費は出すから誰かやってくれよと募集をかけたわけです。それでも誰も手を挙げない。小高は小さな町ですがスーパーは6～7軒、大型スーパーも2軒くらいありました。何で誰もやらないのかというと、自分の店を再開するかどうか決められない、迷っている状態でした。再開しない気持ちの方が強いけれど、再開するかもしれない。そんな状況で他の店を任せたら、いざ自分の店を再開しようと思った時に手が回らなくなって迷惑かける。そんな思いがあったんです。であれば、我々は何も失うものはないし、経験はないけどやろうということになりました。最初は生鮮食品、野菜とか肉とかは売れないだろうと思って、どちらかというと現場で作業される人たち向けの食料品を揃えてスタートした訳なんです。我々の思惑とは違ってオープン初日から住民に怒られましたね。「何で野菜置かないんだ」「ここはスーパーじゃないのか」と怒られました。

「あっ、野菜を買う人いるんだ」と。一気にいろいろな声が挙がってきて、慌てて店を充実させていきました。2015年、まだ住めないけれど日中は家で過ごす人たちが大分増えて来ていたんですが、屋ごはんを自炊したい人たちのニーズが出てきたこともあって生鮮食品を揃えるようにしました。すると、住民からいろんな声がでてきて、年末年始もやってくれと言われました。お客さんの7割は現場で働く人たちだったので、その人たちがいなかったら大赤字だろうと思ったんですが、当時は特例宿泊という制度が始まっていて、お盆とか年末年始は特別に泊まってもいいということになっていました。里帰りしてきた息子夫婦とか孫とか、仮設住宅に集まってかつてのような団欒をというのは中々難しい、狭くてそんなことできない。であれば年末年始は家に帰って子どもや孫達と過ごそうとする人たちが出てくるんですね。その人たちにとって、今年は年末年始もお店があるから宴会もできるしビールも買えるとか、食材も心配しなくていいねとか、帰ろうかどうか迷っていた人たちの気持ちを後押しできるのかもしれないかな、まあ赤字なのはしょうがないなとがんばりました。やはり赤字で二度とやりたくないなと思いましたけどね。少しでも前向きな気持ちになればいいなと思っています。

その後、営業時間の問題、流通の問題などいろいろありましたが、翌年に避難指示が解除され、コンビニが一気に再開、それによって我々は大打撃を受けました。食堂の時もそうだったのですが、それまで一切やる者がいないところだったのに、実績を上げているとできるんじゃないかと思われるんですね。特にコンビニさんは市場分析して必ず利益がでるとこじゃないとお店を出さないと思います。コンビニさんからここは成り立つと認識されたということは、やはり前進したのかなと思います。今は高校が再開しましたので、高校生の下校時間に合わせて終電まで営業時間を拡大しました。人が住まない街なので街に灯りが少ないんです。家の明かりがないので、いくら街灯を付けても暗いんです。親御さんが不安を抱えていらっしゃるの、せめて高校生が帰るまで電気を付けて電車が来るまでここで過ごせるようにしています。東邦高校さんも野球で甲子園に行かれますけど、小高産業技術高校も県でベスト8くらいまではいくんです。野球部が非常に熱心で、閉店間際に駆け込んできてカップラーメン買って電車に乗って食べていくんです。そんな日常が戻ってきたところです。

次に始めたのが、「HARIO ランプワークファクトリー小高」という事業です。何をしているかというと、ガラスの棒を1,000℃～2,000℃の炎が出るバーナーで溶かしてピアスやネックレスなどの小さなアクセサリを作っています。作業をしているのは皆さん女性です。女性限定で仕事にしています。なぜこの事業を始めたか、詳しくお話ししたいと思

います。まず何とかしたかったのが固定概念です。住民の、如何ともしがたい固定概念です。何かというと、どうせ小高には若い人は戻ってこないよ、なぜなら避難区域だから、原発が廃炉になるまで30年40年かかるから、除染したけども不安だから若い人は帰ってこないよというわけです。僕に対しても年配の方が「和田君、若い人は戻ってこないからここを年寄りの楽園にしようじゃないか」なんてこと言うんです。いやいや、年寄りの楽園に住みたくないなと思うわけですよ。何とかしないと年寄りの楽園にされてしまう。何か突破口はないかなと考えていたんですが、そこで見出したのはこちらのアンケートです。帰る意志が少しでもある人に取ったアンケートで、「帰るためには何が必要ですか？」と聞いたのがこちらです。上位には、買い物ができる環境とか医療福祉が整ったとか、除染がおわったとか原発が安全な状況となったということが挙がっています。これは私も対象者だったので何かしらチェックして返しました。ところが、無回答の人が31.6%もいたんです。何も書かない人が3割もいたんです。必要なことは山ほどあるのになぜ書かないんだろうと思ったんですが、ピンときたのが選挙で白票を入れる時の心理です。投票したい人が誰もいない時に白票を入れると思いますが、私たちが欲しいのはこんなじゃない。あるいは、これは最低限のことであってプラスアルファがないと戻って暮らしたいと思えないんだというのがこの31.6%の人たちのメッセージかなと思ったんです。では、この若者が無回答に込めたメッセージは何なのか、仕事かなと思いました。仕事がないと帰れない。どんな仕事か、避難先での仕事よりも魅力的な仕事ですよ。2014年のデータですが、3年経つとそこが新しい日常になっています。新しい職場、新しい学校で、その新しい仕事が前の職場よりも働きやすいとか収入がいいとか、いい人たちがいっぱいいるとか、そういうふうになっていたら、せっかく手に入れた避難先の仕事を捨ててもう一回戻って暮らす。そんな選択ってなかなかし難いですよね。今の仕事を上回る魅力的な仕事を作らないといけないと思うわけですが、そこではたと、そもそも小高にそんな魅力的な仕事があったかなと思ったんです。自分だって、就職するところがないから起業して東京に会社を作ってわざわざ遠隔でやっていたんじゃないかと気付いたんです。これは、避難区域だからとか原発がどうだとか関係ない、もともとあった震災前からの課題なのでそういうふうには捉えられないし解決できないし、逆に、そういうふうには捉えれば充分突破していける課題なんじゃないかなと思いました。誰に対してどんな仕事を作ろうかと考えたんですが、ターゲットにしたのが若い女性で非正規の方。なぜなら非正規で働いているということは、何かしら不安だとか不満を持っているんじゃないかと思ったわけです。そういう人たちの方が転職しようという気にな

るんじゃないかと、じゃあこの人たちは何を考えているのかと調べていったら、20代女性であれば「今の仕事をやり続けても将来どうなるのか先が見えなくて不安です」、30代女性「出産後も仕事を続けたいけれど、どうもそういうわけにはいかないようで」、あるいは「出産後、家で仕事がしたいんだけどどうやって見つけたらいいかわからない」といった不安とか不満を持っていたわけですね。全国的な悩みですけど、そういった悩みとか不安を解消する仕事を作れば、若い女性が働きに来るのではないかと考えたんです。具体的に考えた時に出会ったのが、「HARIO ランプワークファクトリー」という会社です。HARIO さんって一度は皆さん手にしたことがあると思います。コーヒークップとかティポットとかのテーブルウェアを作る老舗のガラスメーカーさんです。創業して90年くらいになるメーカーさんですけども、彼らは彼らで課題を抱えていました。90年の歴史の中で商品を機械で自動的に作れるようにしちゃったので、気付いた時には職人がみんな高齢化して技術が会社に残っていない。これでは会社としてバリューがなくなってしまう、職人を育成しなければいけないということで始めたのが先ほどの小さなガラスアクセサリーを作ることです。これによって職人を育成していこうということだったんです。これだと思ったものですからすぐに電話し、翌週には東京日本橋に会いに行って「やらせてください」とお願いして実現したわけです。なぜガラスアクセサリーを作るという仕事（ランプワーク）がいいのかと言うと、3つ理由があります。

1つは手に職がつくということです。職人の仕事なんです。スキルが積み上がっていく。積み上がれば積み上がるほど難しく繊細なものが作れるようになる。そうすると、自分はこのくらいのペースで働いていれば何年後にどういうペースで働けるか、収入が得られるようになるとか、あるいは年をとっても続けられる仕事ですから、20代30代で結婚してやめるのではなく、人生設計しやすいのかなと思いました。

2つ目は作ったものを全部買い取ることによって計画が立てられるようにしたということです。子育て中のお母さんの自由な時間は1日1～2時間です。それでもいいですよ、作ったものは全部お金に換えます。逆に一日8時間とか週5日間フルタイムで働ける人はガッツリ稼いでください。熟練してくれば、家にガスバーナーを引いて家でやってもらっても構わない。さらに熟練すれば、生徒を集めてガラス細工教室を開いて教えながら自分も制作活動して収入の柱を2本作れます。どんなライフスタイルを送っている人でも収入と仕事の量をコントロールできる、そんな仕事じゃないかなと思ったんです。

また、可愛くておしゃれなもの作りますから、若い女性に好まれるだろうと考えます。

避難区域で人が住んでない所にどうやって人を集

めるか、体験教室を始めてみました。週1回、4ヶ月くらいやったんですが、市外、県外から70名以上の方がわざわざ避難区域に足を運んでくれたんです。遠いところだと隣の山形県とか宮城県です。福島県は広いので車で3時間くらいかけて来てくれたりしたんです。その中で本気で仕事にしたいという方々に研修をうけていただき、7名の方がランプワーカーとして働いております。工房を作り、手前にギャラリーショップがあってアクセサリーが買えるようになっています。作業風景はあえて外から見えるように大きい窓があるところを借りました。殺伐とした殺風景な避難区域で女性が可愛いものを作っている。しかもガスバーナーを使って見たこともない作業をしている。そんな、わくわくするような風景ができてきたんですね。それによってどんな変化が起きたかという、小高に縁もゆかりもない震災復興やボランティアには興味ない、普通に考えれば小高に立寄る必要のない方がアクセサリーを買いに来てくれたり、市内の高校生が1時間半ほど時間をかけて来て「私、高校を卒業したらここで働きたいんです」と訴えてきてくれたり、若い女性が「私、仙台でパテシエやっていたんです。この近くでカフェやりたいので、なんか教育してください」というような相談があったりしました。そんな変化が生まれてきたわけです。

こういう事業を通じて何がしたいか、依存体質からの脱却です。どうしても過疎化が進んでいる地域は、その課題を解決しようとなった時にどういうアイデアが出てくるかという、十中八九、企業誘致・商業施設誘致ですよ。それはそれでいいと僕は思うんです。例えば小高に大きなスーパーができればそれは非常にありがたいと思うんですが、問題なのは、それで課題が解決されてしまった時に、住民がそこで満足して何もしないこと、自分たちで何も解決していないことなんです。お上にお願ひし、企業にお願ひして実現して自分たちでは何もしていないと、そういうメンタリティは問題かなと思っています。当たり前ですが、企業だって経済活動しにきていますから、状況が変われば簡単に撤退するわけですよ。また同じ問題が噴出して解決できる人がいない、そういう人を生み出す風土もない、そしてまたどうするのかっていうと企業誘致ってことになる。地域は縮小してきますから経済的なメリットとかが何もなくなってくると企業さんは来ないですよ。そしたら、減んでいくしかないわけです。企業誘致における最も大きな企業誘致はやはり原発で、それによって僕ら地域は中央に飼われているというか、首に鎖をつながれて餌を与えてもらっているみたいな、そんな身分だったんじゃないのかなって思っているわけです。もうそんな思いはしたくないので、何とかしたい。どうするか。小さくてもいいんです、0から1を生み出す。小さくても経済を

たくさん生み出していく。そういう人たちがたくさんいて、自分の得意とする分野で目の前の課題を解決しようと何かプロジェクトを起したりする人がいて、そういう人たちがお互い足りないところを協力し合って連携する。すると、それが地域の特色になっていきます。地域の魅力になってくる。そこに共感した人たちがまた集まってきて、輪が広がっていく。当然、商売やビジネスをしていけば倒産することだってあります。でも、小さなビジネスであればそんなに大きなインパクトはないし、逆に誰々さんもうやめちゃったんなら俺が代わりにやるよと、そこを新しい世代が穴埋めするように出てくるかもしれない。そうやって新陳代謝を繰り返しながら50年100年続いていく、そういう地域になっていきたいなと思っております。

そうはいってもそんなこと本当にできるの？と思われるかもしれませんが、それが避難区域だった地域だからこそダイナミックに変えるチャンスがあると思っています。とはいえ課題はたくさんあります。例えば今、南相馬市は10年後に半分くらいの人は小高に戻るだろうという試算、いろんな計画を作っています。その根拠が何なのかはわからないですけど、人は「なんだよ、10年かけて半分しか戻せないのかよ。5千人、6千人しか戻せないのか。過疎化して消滅するしかないんじゃないか」って言うんですけど、いやいや待ってくれよ、忘れていませんか。一旦ここはゴーストタウンになったんですよ。住民がゼロになったんですよ。その街が10年後に5,000人にまで増えてくるんです。どの地域も人口減少社会に突入して縮小し、どうやってこの地域を存続させていこうとか考えていかなければいけない中、僕らは、人が毎年毎年右肩上がりに増えていって物もサービスも足りないよと、誰か新しいことやってくれ、新しい価値観を持ち込んで新しい街を作ってくれというような悩みに直面するようになるわけです。そうするとそこに新しい価値観、新しいものを持ち込んで、ダイナミックに代えるということは充分できる、そのチャンスがあるんじゃないかなと思っています。

また、帰還に向けた課題が山積していると言われるんですが、課題というのはビジネスのネタになりますから、それも資源というふうに考えれば非常に面白いんじゃないかなと思いますし、僕らの地域は20年後を先取りしたと言われているんです。であれば我々がここでいろいろなチャレンジをすることで、今後迎える少子高齢化のモデルになるような事業を作れば、20年先にそれを実現して他の地域に展開していけば、先進地域になれるんじゃないかとか、商売再開しても成り立たないと言われるんですけど、競争しないからやりやすいよとか、考え方を変えるだけなので、もう本当にわくわくするようなチャンスに溢れているわけです。

最後になりますが、原発20キロ圏内からのメッセージを送ります。よく私は「何でそんな一生懸命やっているんですか？」と聞かれるので、モチベーションの源泉みたいなところだけお伝えして締めたいと思います。今、いろいろチャンスに溢れているよとか面白いんだよとお話ししましたが、そうは言っても普通の人から見れば、足を運んだりそこで何か関わったり、ましてやそこで暮らそうという選択肢はあるはずもない、やっぱり非常に大きなハンデを負った地域ですよ。普通の現代社会の価値観、そういったものを基準に物事を判断している人からすれば、絶対選ばない地域なんです。そういう意味では現代社会の中でポッと出来た異世界だと思っています。暮らしたくないというのは当然だなと思うんですけど、逆に「今の価値観をベースにいろんなものやサービスを作っていってその延長線上に理想的な社会、理想的な暮らしって作れるんですか？」というふうに僕は思うわけです。今日本は物やサービスが溢れていて、非常に豊かで便利になって何も不自由はないんですが、でも幸せじゃない人が多くて、自殺者も多くて、いろんな社会課題がたくさんあって、便利になったけれども何か忙しくもなって、家族との時間がどうか、ブラック企業がどうか、そういう様々な課題に直面しているわけです。これどっかで変えようとしても、今持っている価値観捨てて、あるいは今の社会の仕組みを全部壊してやり直しますか？といったら、それはできないと思うんです。ひるがえって僕らの地域をみると、そういう必要なもの全部なくなりました。でも、要らないものもなくなったんですね。まあ真水みたいな地域になったわけです。味が付いて魅力的なドリンクになっているのが他の地域だとすると、僕らは無味無臭で誰かが何もしない限りずっと真水のまま。であれば、ここにゼロから作っていった方が理想的な社会に早く到達できるのではないかなと思うわけです。ましてやここは物やサービスが溢れている日本です。途上国で新しい街を作るのとは違って、今の豊かな暮らし、文化的な暮らし、高い人間性、そういったものをベースに一歩上を突破する社会を作っていく可能性があるわけです。ここで未来に残したいものだけ作っていけば、誰もが住みたいと思う社会が作れるんじゃないかなと思っています。だから僕ら異世界ですけども、異世界を開拓して新しい社会を作ろうと。なぜならここは現代日本が唯一生み出した、そしてやり直しができる最後のフロンティアだと考えているからで、私は30代40代という人生で一番働ける時期を、このフロンティアの開拓に命を使えるっていうことに対して非常に高いモチベーションというか、やりがいをもってやっているとこです。

赤萩時代最後の卒業生として

加藤 誠一

高校三年生

赤い夕陽が校舎を
照らし楡の木陰に弾
む声と始まる曲、な
ぜかいつも思い出す
壁画の描かれた校舎



1970年 昭和45年

フォークソング同好会を発足

生徒会等によって、文化祭には5つの赤い風
船、加川良など招いたコンサートが行われた。

この当時フォークソングブームが若者を中心
に大変盛んであった。その世代はもう年金生活
に突入。学生運動が盛んとなり本校に於いても
校長室の占拠等、激しさが加わった。

1971年 昭和46年

卒業

1972年 昭和47年4月

校舎は平和が丘に移転。さらに大きく発展し
ていった。

1973年 昭和48年5月

創立50周年記念

1975年 昭和50年10月

妻と結婚

1978年 昭和53年8月

夏の甲子園大会準優勝。惜しくも東洋大姫路
に敗れたが、この時東邦のスターとなった一年
生投手坂本佳一。ニックネームはバンビ。さわ

やか東邦との評価を得た。大会終了後、彼らの
凱旋を知り、久しぶりにまだ2才にならぬ娘を
抱きかかえ彼らを迎えた。

皆勤運動 クラス通信

1978年 昭和53年

クラス全員無遅刻無欠席の快挙 名物教師小
林知生氏

1983年 昭和58年5月

創立60周年記念

1985年 昭和60年2月

男女共学が実現

1990年 平成2年

娘は高校受験を控える事となった。私は、我
が母校を見せたくて再度娘を連れて学校へ向
かった。そして、こう語りかけた！ごらん、靴
箱に並ぶ靴達をそれぞれがそれぞれの彩りで
もって輝いている。それに比べて、同じ色の靴
が整然と並び、ただ一つにまとめられている靴
箱とは大きく違う。皆、個性が際だってるだろ
う！そして先生も、自由かつユニークな面々な
のだ。そして、熱心で、生徒ひとりひとりと真っ
向から向き合ってくれる。あくまで生徒を信頼
し、粘り強く最後まで面倒をみる本校に脈々と
流れている基本的な考え気風がある。

1991年 平成3年

そして娘は、念願叶い東邦入学を果たしまし
た。入部したクラブは、吹奏楽部。パートはフ

三菱電機株式会社 代理店
新電元工業株式会社 特約店



代表取締役社長 下 出 啓 介

本 社 〒465-0093 名古屋市名東区一社四丁目22番地
TEL (052) 702-2021 FAX (052) 704-3131
岡崎営業所 〒444-0075 岡崎市伊賀町三丁目25番地
TEL (0564) 21-6792 FAX (0564) 21-6838



安全・安心・信頼へと
繋ぐサービスを!

役員車・大型バス等の
運行管理請負業務



株式会社スターロードシステム

代表取締役 井 島 規 夫

〒451-6040 名古屋市西区牛島町6-1
名古屋ルーセントタワー 40F
TEL(052)569-2956 <http://www.star-road.jp>

ルートでした。

1993年 平成5年

創立70周年記念

同年 8月24日

吹奏楽部が日中友好を目指した海外公演を初めて企画し、両国の教育界の芸術文化活動の向上を目指して実施され、CBCテレビで番組として放映された。この時の海外公演に娘も参加。先頃では、アメリカのローズパレードにも参加したという。また甲子園の演奏においては、吹奏楽部と野球部で話し合いを重ねて曲に動きをつけて声援を送ることに決めたそうです。

同年 3月22日

小林知生退職記念リサイタル、厚生年金ホールにて開催。クラス皆勤を成した名物先生自費で記念コンサート。雪駄にサングラス、授業時間にワンマンショーと、とてもユニークな教師。よく「花とおじさん」のギター伴奏を賜りました。先生は、満場の観客の前で教師生活最後のリサイタルを盛況の内に閉じました。空手5段、弱い者の味方、悪ガキを見たら、抱きしめて頬ずりしてあげたいと仰っていました。卒業写真には、教職員とともに生徒の制服を着て写っていますよ！

自治と真面目がスローガン

私学ならではのユニークかつ自由を重んじる教育

方針。私は、この学校で多くを学び青春を過ごした。男子校時代のこと今還暦を少し過ぎた私は、はるか昔の生徒手帳をめくる。開いた最初のページは、若かりし頃の身分証明写真。現在の私とはほど遠く、照れくさい思いになる。さらに生徒心得として『真面目』の三文字が構えている。理性と良識に基づいて確立された理想や目的に向かって忍耐強く、真剣かつ情熱的に思考し行動することであると理解しよう。これはおよそ半世紀の時を経てもなお、心のそこに生きて働く言葉。ひたすら走り通す事、諦めず、取り組む事。この精神は、勉学にしっかりクラブ活動にしっかり、今日の東邦高校に生きて働き続けています。様々な試みを経て民主主義教育の実践を重ねてきた伝統をいつまでも大切に願う。

皆さんも是非一度、母校を尋ねてみてはいかがでしょうか！

2003年 平成15年

創立80周年記念。アトラクションにピアノで参加。

2013年 平成25年

創立90周年記念

2023年には100周年を迎える。100周年記念事業推進委員会が発足。

既に100周年記念に向けて走り出している。

空調・給排水衛生設備工事
消防施設工事 総合メンテナンス事業

D **ダイター株式会社**

〒464-0858 名古屋市千種区千種三丁目1番9号
TEL(052)732-5821 FAX(052)732-5295

AKASHI School Uniform Company

株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー
名古屋支店 / 〒452-0839 愛知県名古屋市長見町120番地
TEL:052-506-7811 FAX:052-501-7272 URL:www.akashi-suc.jp

30坪からの土地活用
KODATEX
コダテックス

土地・建物の有効活用のパイオニア
貝沼建設株式会社
kainuma
代表取締役 宇山 公一郎 〒460-0008 名古屋市中区栄五丁目7番14号
TEL (052) 242 - 1131 FAX (052) 242 - 2291

川北電気工業株式会社

本社 / 〒460-0008
名古屋市中区栄四丁目6番25号
☎ (052) 251-7111 (代表)

株式会社 セントラル防災

◆消防設備(保守・点検・施工) 〒454-0975
◆防火対象物・防災管理点検 名古屋市中川区七反田町3番地
◆特殊建築物等定期調査 Tel.052-431-0711 Fax.052-431-0885
◆建築設備定期検査 URL http://www.central-b.jp/

セントラル防災

父が愛した東邦学園

株式会社マルワ
代表取締役社長 鳥原 久資

私の父、鳥原純治は平成13年の会長代行から平成16年まで東邦会の同窓会会長を務めさせていただきました。その節には多くの方からご支援をいただきました。父に代わりましてあらためてお礼を申し上げます。

父は平成20年5月に他界しています。生前は母校の東邦学園の発展を誇りに思っていました。このたび「フレンズ・TOHO『みどりの風』原稿執筆のお願い」を目にして父に代わって東邦学園への思いを書いてみようと思いを筆を執った次第です。

父は昭和3年生まれです。東邦商業の時代の卒業生となります。実



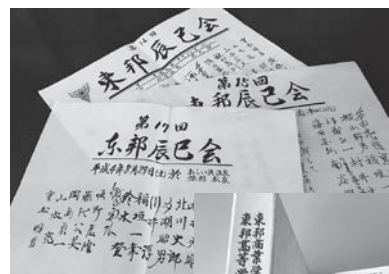
生前の鳥原純治氏

は東邦商業は学徒出陣で多くの学生を亡くしています。父はそんな彼らと年代代でした。ちょうどそのころ予科練に自ら志願し呉にいましたので父は空襲を免れています。ただ多くの同級生を亡くしたと生前言っていましたので、高校の校内に慰霊碑ができたこと知ったときは、もしこれが父の生前であればさぞかし喜んだことだろうと思っています。

「東邦」という名前をよく耳にしたのは「東邦辰巳会」です。私が父の会社に入社し、社内で印刷の版や

印刷された本などで「東邦辰巳会」という言葉をよく目にしました。辰巳会という名前は聞いておりましたが、具体的なことは何も知りません。ただ辰巳会で一緒にいただいた方の息子さんから「鳥原さんのお名前は良く父から聞いていました」と言っていたので、少しはお役に立っていたんだらうと思います。今回の投稿に際し、辰巳会の事をインターネットで検索すると会報誌などが投稿されており、記事中の写真をお見かけすると父の世代の方がご健在のようです。中には父から聞いていたお名前もあり一度もお会いしてはいませんが、父がお世話になった方々だと思えると懐かしく感じるので不思議なものです。写真の皆さまをお見かけすると矍鑠とされており父と雰囲気がとても似ています。戦前の気骨あるお姿は辰巳会の皆さま共通なのだとあらためて感じています。

さて、東邦と言えばやはり野球の話題なくして語



会社に残っていた原稿

お手伝いをさせてもらった野球部史



Planners Land
株式会社プランナーズランド

学校業務のスペシャリストとして
コンサルティングから導入・運用サポートまで
システムをワンストップに提供致します。

〒460-0008 名古屋市中区栄5-25-6
TEL:052-265-2930 FAX:052-265-2931
<http://www.planners.co.jp>

総合印刷

自分史企画
自費出版企画
販促企画
会社案内
パンフレット
会報・名簿

人が集い 社会に発信する会社

私たちは、「小さな思いやりが集まって大きな力になる」と信じています。

株式会社 マルワ

〒468-0011 名古屋市中白区平針四丁目211番地
TEL(052)802-4141 FAX(052)802-9355

<http://www.maruwanet.co.jp>



OBAYASHI

地球に笑顔を

大林組

れません。普段職場でラジオを聞くということは全くなかった父ですが、甲子園に出場するときだけは特別でした。ラジオから流れる対戦を手に汗を握りながら聞いていた父。また社屋が新しくなってからは社長室でテレビ応援に熱心でした。同窓会にかかわるようになってからは甲子園出場の際は楽しみに応援に出かけていたのを思い出します。亡くなった年の夏に甲子園大会に出場しましたので父の遺影を持って応援に出かけました。職員の方に案内されて席についてアルプススタンドを振り返ったときに、満席の応援団を見てこんなに大変な歴史のある会の会長をやっていたのかと驚くとともに伝統校の重みを感じた次第です。

東邦学園の会長を務めた父親にとって学園全体の発展は自分の事のように楽しみだったようです。当社の社長職を退いてからは会長職でしたので、仕事一本の父親にとって学園への恩返しも、同窓会の事に一生懸命に関わっていた気がします。特に平成13年に学園の総合化を目指し愛知東邦大学が開学した時は、自分の事のように喜んでいました。「これからは東邦の伝統と活力を生かして発展していかなければ」と常々口にしていました。あれから多くの卒業生をこの世に送り出し、地元根付いた大学に発展していることは言うまでもありません。

一方で四年制大学ができる前から多くの卒業生が地元の経済界そして芸能界や角界でも活躍されている方が数多くおられます。実は父の葬儀の時に参列いただいた方の中には地元の商工会議所の関係者や異業種交流の先輩、多くの知り合いの経営者の方にも参列をいただきました。わたしが思っている以上に顔見知りの方が多く、地元経済を支えている人たちを数多く輩出している「伝統校」だということを

あらためて感じた次第です。

個人的な話で恐縮ですが、わたしは大学を卒業して8年間だけ教職に就いていました。ちょうどそのころ中学校に赴任していた際に、東邦高校が男女共学になりました。当時としては斬新なブレザーを取り入れた制服の採用もあり、



鳥原久資氏

り、あっという間に生徒からの人気校になったことを鮮明に覚えています。今では私立高校も男女共学が多くなりましたが、そのさきがけを務めていたのが東邦。いつも新たな刺激や空気を入れ、前を向いていく一体感と力強さが学園にあるのだと感じています。

株式会社マルワは父が創業し今でも学園とご縁をいただき会報誌などのお手伝いをさせていただいています。このご縁を大切にできるようにこれからも読みやすく楽しい紙面構成に努めてまいりたいと思っています。

少子化となり人口減少が取りざたされ、今後の学園運営は益々厳しさが増すと言われています。またこれからの経済は過去の延長上にはないと言われ、「現状打破」「未来創造」の思想が運営に欠かせません。特に次世代を担う生徒さんや学生たちには、時代や変化に対応できる教育がこれからますます強く求められると思います。しかし東邦学園のたどってきた歴史を見ると常に先手を打った運営をされています。このDNAがある限り独自の運営で進歩発展していくものと信じています。これからも更なる学園の発展をお祈りしています。陰ながら父親同様に応援させていただきます。



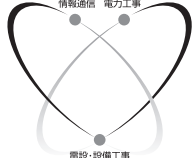
丸美産業株式会社

名古屋市瑞穂区瑞穂通三丁目21番地 <http://www.marumi.com>

代表取締役会長 嶺木 昌行 代表取締役社長 南 喜幸

心をつなぐ、明日を照らす。

電気・通信・空調・土木工事

 **中央電気工事株式会社**

代表取締役会長 加藤 英和
代表取締役社長 加藤 大策

本社：名古屋市中区栄三丁目14番22号
TEL (052) 262-2151 (大代表)

 **新東工業株式会社**

New Harmony >> New Solutions™

www.sinto.co.jp

名古屋市中村区名駅三丁目28番12号
TEL 052-582-9211

東邦のルーツを探索する その一

竹田 善隆

東邦学園の先駆者の一人、初代校長・大喜多寅之助先生について本学園ではあまり知られていないようである。私が学園にお世話になった平成4年はちょうど創立70周年の準備の最中で、着任早々に記念誌『70年史』の編集に携わることになった。

その学園史のコラムに、歴代の学長・校長先生についての思い出や人物像を特集し、それにふさわしい執筆者を選んでお願いすることにした。その際大喜多先生については、当時のOB最長老の林伊佐武氏（旧制商業2回生）に執筆を依頼したところ、「どうしても書けない」と返上された。——考えてみれば中等学校時代の校長は、生徒にとって雲の上の存在で身近に感じられなかったかもしれない。その結果やむなく諸資料を探索し、私がまとめて執筆することにした。しかし、その後も大喜多先生については関心をもって古書や記録を求めていたので、改めて学園史を散策するつもりで記してみたい。



氏助之寅多喜大

（大喜多寅之助初代校長
『岐阜県名鑑』による）

まずは『岐阜県名鑑』（昭和13年・名古屋通信社発行・非売品）掲載の「大喜多寅之助氏」についての人物像を紹介したい。（原文のまま）

——大垣旧藩士大喜多治助氏の五男として、慶応2年[1866年]11月20日大垣市に生る。医学博士

岡田鶴也氏は同氏の令弟に当る。明治25年東京帝国大学法科第一部を卒業すると共に、代言人免許をうけ、翌26年名古屋市に弁護士を開業す。後進青年のため、翌27年名古屋市に中京法律学校を創立して校長となり、多数子弟を教養する傍ら、金城新報[当時の名古屋の地元新聞]の編集監督を兼ね、やがて氏の透徹せる弁論は法曹界の人気を集め、依頼者相次ぐの盛況を示し、中京法曹界の大立者となり、名古屋商工会議所特別議員、名古屋弁護士会長にあげられ、市議員に当選すること五期、市会議長の要職にも就くなど、市政界にも牢固たる勢力を扶植。佐藤孝三郎氏の後を承けて大正10年7月名古屋市長に選ばれて就任するや、都市の発展は土地区画整理と道路の改修にありとし、鋭意これが遂行に努め、殊に内務省一部当局に異論あったのを、市議員その他関係者を動かして、隣接十五ヶ町村の併合を断行した。名古屋市が最近十余年間に長足の発展を遂げ、東洋に誇る大都市と化し、本邦唯一の工業地帯となり、将来の躍進はかり知るべからざる股脈を極めつつある今日の素地は、実に大喜多氏の努力の賜もので、畑違いの法律家である氏において、大名古屋市今日の発展の基礎を形成したことは、同氏の識見手腕の非凡なることを裏書きする一証左である。政党関係に禍ひされて在任僅かに1年2カ月で辞職したとは云へ、名古屋市百万市民は永久に氏の功績を讃えて止まないであらう。市長を辞するや、再び弁護士を開業。各事業会社に関係するほか、東邦商業学校を創立して校長となり、故岡本桜氏等と

株式会社イープロ 愛知東邦大学・東邦高等学校の
皆さんの学校生活をサポートいたします。

各種メーカースポーツ用品・東邦くんグッズ・
東邦さわやか水のほか、さまざまな商品を取り扱っております。
お気軽にお問い合わせください。

〒465-0097 名古屋市名東区平和が丘3-11
愛知東邦大学内
TEL052-781-6011 FAX 050-3737-2134
E-mail: info@epro-co.com

東邦スイミングクラブ
〒465-8516 名古屋市名東区平和が丘3-11
TEL052-782-1266 FAX052-782-1267

TIGER HOUSE co.ltd since 1979

タイガーハウスはお客様の視点で考える会社です
洗練された空間、自然に寄り添う光と影、お客様の思いを形にしてゆきます。
人とまち、そして自然と調和する建築を第一に
思いをカタチでつなぐ総合施設会社です。

タイガーハウス工業株式会社
〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-12-7 2Fビル3F
TEL 052-561-3350 FAX 052-561-3349
HP http://tigerhouse.co.jp/

ビル総合管理 学生食堂運営
建物清掃、電気機械の運転保守、警備、貯水槽清掃、人材派遣
インテリアデザイン、設備設計・施工、フードサービス、コンビニ運営

「LIVE-ENVIRONMENT CREATIONS」
生活環境を創造する

名古屋ビルサービス株式会社
〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目3番1号
名古屋広小路ビルディング14階
TEL (052) 559-5000 (代表) FAX (052) 559-5010

共に桜菊女子学園を創立するなど、育英事業に尽した功績亦没すべからざるものがある。現に名岐自動車、大勢無盡、東邦瓦斯株式会社の重役を兼ね、実業界における声望も高い。継子・光氏亦東京帝大出身の法学士で、東邦瓦斯株式会社庶務課長の要職にある。(現住所、名古屋市東区外堀町)

また『大喜多寅之助先生遺稿集』には、東邦商業に関する事項が二か所に掲載されている。

その一つは――

「余が東邦商業学校長となりし動機」(原文のまま)

或日(注：大正12年3月末頃か)、元名古屋地方裁判所長石井豊七郎氏来訪して曰く。

「余(石井氏のこと)東邦商業学校書記某氏(主事の森本金五郎氏か)に、同校設立の認可があり次第、其校長たることを引受け置きたる^{いよいよ}處、愈々認可相成り、数日中に開校、生徒募集の広告をなしたるに依り、校長就任せられたし」との事なりしを以て、取敢えず今朝、控訴院長磯谷幸二郎氏に相談したる處、「裁判長が、商業学校長とは一寸不似合ならずや」と申され、実に困りたり。

「就てはせめて、校長を物色してやらねば相済まず、適任者はなかろうか御考を乞ふ」とのことなりしかば、色々名前を挙げて相談したるも纏まらず、結局石井氏は余に向って「君、一つ承知して貰ひたし」と懇情止まず。何分数日中開校の事なれば、遂に根負けして、引受くるの止むなきに立至りたり。

後考ふるに、石井氏は初めより余に押付ける積りにて来訪ありしものの如くなりしか。(→一杯はめられたとの後述＝筆者注)

余は、東邦商業校長なること十余年、同校の盛況を見、下出義雄氏に校長を譲りたり。

もう一か所は、「東邦商業学校長たりし時」の項余は、東邦商業学校長たりしとき、其第一回卒業式場に於て、校長として生徒に対する訓示に中に於て、突然涙が出て、暫時伏したることあり。

式後、卒業生のあるものより、如何なる訳なりしやと尋ねられ、余は曰く。「今日卒業生を出す、実は不完全なる教育を施し、社会に送るのは自分として、責任上実に相済まぬと思ひしより、あの様な始末に及びたり。どうか卒業生諸氏は、之を思ひ、社会に出ては、一層勉強して、努力せられたし」と、諭したり。

其後、卒業生の就職口を求むるに当り、或会社の支店長の如き戯言ではあるが、「僕の方へは可成、成績の悪いやつをよこし給へ」と云ふ人あるが如く、苟も学校さへ卒業させ置けば、何処へでも使ひ道はあるものなることを知り、考ふるに先方へ参り、する仕事は何人にも出来ることなれば、只素直に立働き居れば、数年の後には、立派に役に立つ様になると云ふ事も分かり、一層気良くしたる事あり。少し位成績良くても、不平を起す様な人間は、始末に困るとは雇人側に於ける定評なりし。――と記されている。

ところで、民義先生と大喜多先生の関係はどうか。

方や大阪岸和田のご出身。もうひとつ方は岐阜縣大垣のご出身だが、名古屋でのお住まいはごく近かった。当時の下出家は中区南鍛冶屋町(現在の栄の松阪屋北館付近)で、大喜多家と同じ町内だったこともある(大喜多家は名古屋で五回ほど転居されている)。しかし、民義先生は、直接大喜多先生に依頼されるのではなく、石井名古屋裁判所長を通して依頼されたようである。これを受けた石井氏が、大喜多先生を説き伏せた腹芸には恐れ入る。



名古屋観光ホテル Tel.052-231-7711(代)
www.nagoyakankohotel.co.jp

Rinnai

リンナイ株式会社

〒454-0802 名古屋市中川区福住町2番26号 ☎052-361-8211



株式会社 アール・エス・シー中部

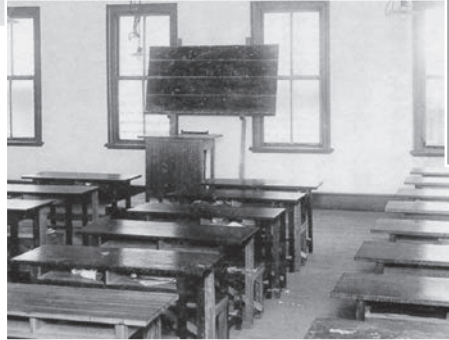
代表取締役社長 伊倉 和 春

住所 〒451-0042 名古屋市中区那古野一丁目14番18号 那古野ビル北館208号室

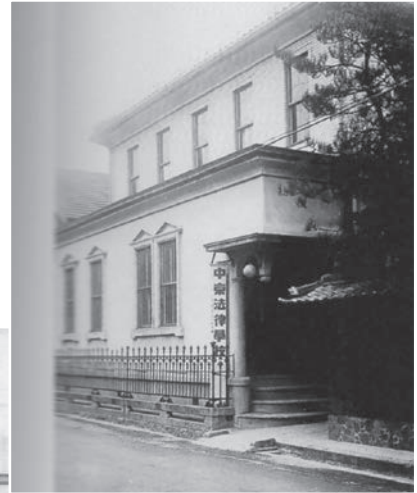
電話 052-581-5421(代表) FAX 052-583-4806



大正12年頃の中京法律学校



中京法律学校の教室内



中京法律学校の出入り口
(中京法律学校提供)

さて、本学園の開学1年目の状況を日誌ふうに記載した貴重な資料『沿革細史』によれば(文中の数字は算用数字に変更)、

◇3月31日

午後3時着。官報電報258号ヲ以テ、文部省当局者ヨリ中京法律学校内横山金五郎氏宛、本校設立認可ノ旨急報アリ。電文左ノ如シ。
トウホウセウゲウガクカウセッチニンカアツタ
(→東邦商業学校設置認可あった)
創画者横山金五郎氏ノ筆舌ニ絶ユ。

◇

——大正12年に認可された東邦商業学校は、当初

は乙種であったと思われる。私が編集した『真面目の系譜』(東邦会発行)の320頁に掲載の『愛知県統計書』による東邦商業学校の時系列統計』によると、大正12年～13年は修業年限が4年制に、同15年度から5年制になっている。

◇

◇4月1日

(中 略)

名古屋地方裁判所長石井豊七郎閣下ヲ煩ハシテ、法学士弁護士大喜多寅之助閣下ヲ本校校長ニ推薦ス。(→前述の『大喜多寅之助先生遺稿集』参照)

◇4月3日

(中 略)



創業 昭和3年
勝 株式会社花田工務店

豊橋市中世古町121 <http://www.ha-net.co.jp/>
豊橋本店 / 名古屋支店 / 西三河営業所



集いと学び空間をデザインする

教育施設用家具

愛知株式会社

<http://www.axona-aichi.com>

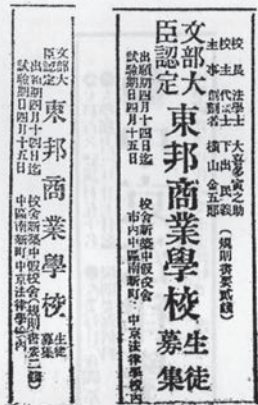
〒461-0003 名古屋市東区筒井3-27-25

TEL (052) 935-6226 FAX (052) 935-6220

飲料 食品 無料Wi-Fiスポット、
お届けできます。
自動販売機の設置から運用までトータルサポート
タケショー株式会社
〒475-0837
愛知県半田市有楽町7丁目37番地12
0569-23-0511 タケショー
9:00~17:00 土日を除く

本日ヨリ名古屋六大新聞紙上ニ連日ニ亙リ、
使途募集広告ヲ掲載セシム。名古屋通信社ヲ通
シテ依頼セシニ、頗ル好意ヲ表シ、宣伝記事ヲ
満載ス。

【初年度の生徒募集広告】



大正12年4月3日～14日に
わたって上の大小2種の広
告が在名6紙に掲載された
(初年度の広告)

大正12年4月3日～14日
に在名6紙に掲載された
初年度の広告

新愛知新聞、名古屋新聞、名古屋毎日新聞、
愛知新聞、名古屋日日新聞、名古屋日報。

名古屋市内小学校は84校へ、本校創設披露
並ニ生徒募集ニ関シ依頼ヲ発送ス。

◇4月13日

大喜多校長来校。生徒募集現状ニツキ聴取、
並ニ指揮アリ。岡田鶴也医学博士ヲ本校校医ニ
推薦方ニツキ、尽力スベキヲ語ラヒ、下出校主
御訪問ノ為、駕（人力車か）ヲ飛バサル。

◇4月15日

入学試験ヲ挙行ス。受験者120名。

(中略)

国語算数二科ニツキ詳細答案ヲ調査シ、午後
2時合格者発表。合格者98名。

下出義雄氏ノ入学式ヲ挙行ス。父兄ノ参列夥
シ。

◇4月18日

開校第一日。入学者父兄参集。

下出校主、大喜多校長御来校。本校設立ノ趣
旨ト将来並ニ抱負ニ付、長時間ノ訓話アリ。

(以下略)

設置認可から開学までわずか半月あまりの間に、
校長の選定、各学校への生徒募集の依頼ならびに新
聞広告、入学試験とその結果発表と同日に入学式、次
いで開校式——と矢継ぎ早の日程で行われており、
今日では到底考えられないハードスケジュールで1
年目の活動が始まった。

(つづく)



工業用ゴムプラスチック製品

丸善株式会社

代表取締役 木村 憲 藏

本 社 〒460-0022 名古屋市中区金山4丁目3番11号
TEL (052) 332-0811(内) FAX (052) 332-3566

豊田信用金庫 天白支店

〒468-0053 名古屋市中区天白区植田南2丁目216番地
TEL 052-802-5011 FAX 052-805-5027



株式会社アペックス

最高の一杯、最高のひととき

ビルを、まるごと、心地よくする。
三菱電機ビルテクノサービス



中日本警備株式会社

〒460-0022 名古屋市中区金山2丁目1番24号
警備保障 電話 (052) 322-3291(代) FAX (052) 322-3110
URL <http://www.nakanihonkeibi.co.jp/>



空気と水の環境創造企業

三建設備工業

●名古屋支店/〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-28-27 ☎052(561)4101
<http://skk.jp>



青島設計
株式会社
AOSHIMA ARCHITECTS & ENGINEERS INC.

名古屋事務所 (052) 262-2341
東京事務所 (03) 3431-2341
<http://www.aoshimas.co.jp>

企画実施報告

西濃で紅葉を楽しむ旅 (2017.11.18 実施)

20 名参加

秋の一日を自然の中で過ごす企画。今回は西濃で紅葉を楽しむ。直前のトラブルを乗り越え、雨の西濃へ。両界山横蔵寺では妙心上人の舍利仏(ミイラ)を拝観。谷汲山華厳寺と共に見事な紅葉に恵まれ、真冬のような寒さの中カメラを片手に境内を散策して紅葉を楽しんでいただいた。

今回の旅は歩くより行楽の一日となりました。



横蔵寺にて

【参加者の感想】

- ・今回のコースは、近くでも行く機会がなくて今日は楽しめました。
- ・華厳寺と横蔵寺に感銘を受けました。雨が残念だったが、ゆっくりできました。
- ・主人が亡くなり、久しぶりの参加です。どこに行くかより、誰と行くかが大事だと思いました。
- ・徳山ダムが初めてで大きくてきれいなダムだった。後は、岡田先生のお話を楽しみにしています。
- ・10年くらい前から参加し、今までで7・8回はお邪魔しています。年をとってきたけれど10年後も楽しみにしています。華厳寺は先日テレビで見て、行って見たいと思っていたところでとても良かったです。
- ・寒くなると心配していた。あんなに綺麗な紅葉は久しぶりでした。

愛知東邦大学 コミュニティカレッジ ～2018 年度前期講座～

地域に開かれたキャンパスとして、本学の特色を活かした講座を開講します。
地域の皆様との知的交流を通して、「学びのコミュニティ」を創出します。

カフェテリアで人工知能について学ぼう

船木恵一(経営学部教授)

英文多読体験講座

竹越美奈子(経営学部准教授)

防災カフェ in 愛知東邦大学

藤沢真理子(人間健康学部教授)

楽しみながら成長を支えよう! ～ポジティブ心理学を活用する子育て～

高柳伸哉(人間健康学部助教)

認知症予防のための運動教室 ～簡単な多重課題運動を気軽に体験してみよう～

中野匡隆(人間健康学部助教)

女性のための自分でできる ボディデザイン講座

中野匡隆(人間健康学部助教)

マーチングをやってみよう!

白谷峰人(愛知東邦大学吹奏楽部団総監督)

マーチング大好き!

白谷峰人(愛知東邦大学吹奏楽部団総監督)

英語でヨガ(初心者)

後藤麻友(ヨガインストラクター)

認知症サポーター養成講座

愛知信用金庫、
名東区北部いきいき支援センター合同寄附講座

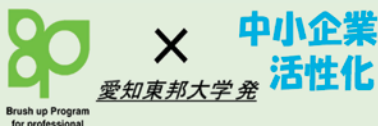
シニア検定初級

(株)グローリア 21 寄附講座

教育学部は、

名東区子育て支援ネットワーク連絡会と
連携した活動を実施中!

講座の詳細、お申し込みは 3 月 12 日(月)以降、
本学公式 Web ページでご確認ください。



※上記は文部科学省が認定した「職業実践力育成プログラム」であることを示すロゴマークです

文部科学大臣認定 / 職業実践力育成プログラム

「中小企業のための 若手社員活性化プログラム」

2017年度はフレンズ TOHO 会員企業 2社より、3名の方が受講されました！

愛知東邦大学では、2017年4月から、文部科学大臣認定の「中小企業のための若手社員活性化プログラム」を開講しています。このプログラムは、文部科学省が社会人の学び直しを支援するために、全国の大学から申請されたプログラムの中から、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が「職業実践力育成プログラム」として認定したものです。

2017年度は8名の方が受講され、その内の3名はフレンズ TOHO 会員企業である(株)IEC、電子システム(株)の社員の方です。2016年度の受講生を合わせると、これまで4社8名の方が受講されました。受講した方からは、次のような声がありました。

【受講生の声】

「会社での体験や経験が授業内容と重なる臨場感があります」

「他業種の受講生の方々との意見交換や、企業勤務経験のある先生方の実体験をベースにして授業が進むため、参考になることばかりでした」

「仕事と授業の両立はハードな日々でしたが、大きな気づきと受講されている皆さんとのすばらしい出会いがありました」

2017年度からは、外国人講師が担当する「ビジネスシーンで使う英語の基礎と考え方を学ぶ」(全6回)を追加してバージョンアップしました。詳細は、同封の「2018年度募集要項」をご覧ください。本学公式Webページには上記募集要項だけでなく、授業科目の内容・計画等も掲載しております。その他、ご不明な点がございましたら、愛知東邦大学教務課までお問合せ下さい。

学校体育用品・体育施設

ジャンボスポーツ(株)

090-3158-7847 (直通 携帯電話)

FAX 0567-26-9099

加藤 和夫

住友ゴムグループ

国内実績No.1のロングパイル人工芝

Hibrid-Turf
The Latest Artificial Turf that Feels Even More Like the Real Thing

株式会社 住ゴム産業 中部支店

〒460-0012 名古屋市中区千代田4-2-24 東國枝ビル2F
TEL (052) 350-2122 <http://www.sumigs.co.jp/>



誰にでも読みやすいUDフォントを使用しています